

情 報 局 編 輯

週 報

三 月 一 日 號

昭和十九年三月一日
日曜
（無題一冊本編日誌付）

切替へは今だ

五 錢

母 親 學 校 の 護 生
木 材 生 産
燈 獻 納 機 増 産

384號

撃て、内南洋突破の野望



編輯局報情

報週

號日一月三

切替へは今だ

母親學級の誕生
戦ふ木材
一燈献納一機増産

撃て、内南洋突破の野望

384號

昭和十七年三月一日
（毎週一週本誌日發行）

五錢

日本人の心持は御神輿を擔ぐことに象徴されてゐる。御神輿は大勢で擔ぐ。いで、たちは鉢巻、法被の勇ましい服装である。みんなが總力をつくして押して行く。中には夢中になつて、方向を間違へて押ししたり、横に押ししたりする者があるが、これが爲めに却つて正しい方向へ押して行く力は強くなり、擔ぐ者一つの體となつて、逆ふものは何物をも粉碎せずんばやまない勢ひで、力強い掛聲と共に進んで行く。これを煽ぐものあり、水をかけるものあり、しかも御神輿を擔ふ者は、猛然と進み行き、遂に神社の鳥居をくゞり境内に到る。

大東亞戦争を遂行しつゝある我々は、今や重大時局に當面し、一億悉く武装し、御神輿を擔いで前進するの意氣をもつて、行手を阻む敵米英を薙ぎ倒し、以て征戰目的を完遂すべきである。

週

言

切替へは今だ

元寇いたる

昭和の元寇は、我々の身近かに追つてゐる。わが皇土の一角マーシャル諸島に來寇し、こゝに戰略基地を築き上げた敵は、マーシャルからトラックへ、二旬足らずでわが内南洋の心臟部深く、鋭い匕首を突き刺して來た。トラックから東京へはわづか三千三百餘キロ、飛行機なら十時間、グム、小笠原をひと飛びすれば、もう東京灣である。

この太平洋の中東進攻は、エミツツ攻勢として、敵がかねがね呼號してゐたもので、いまさら驚くに足りない。しかし、我々が氣をつけねばならないのは、敵が容易ならぬ決心を固めて我に戦ひを挑み、その攻勢の速さが豫想以上に早められて來てゐることである。

敵がこのやうに積極攻勢に出て來たことは、「日本に時を藉すな」と焦つてゐるせいでもあるが、物量に物をいはずで、敵は現在持つてゐる艦船や兵員に相當の犠牲を受けても、あとは造りながら戦へばよいとのふてくしい自信をつけて、犠牲覚悟の強引な侵寇作戰に出て來たことを知らねばならない。

敵は、このマーシャル、トラックへの攻撃には、「太平洋に集結した空前の大機動部隊」を動かしたといつてゐる。あの珊瑚礁の島々に、空から、海から一万余千トンといふ鐵量を惜しみなくたゞき込んで、數方といふ兵員を上陸させようとする戦法が、どんなに言葉に絶するはげしいものであるか、眼に見えるやうである。そしてこの物量の攻勢に對して、精強無比の皇軍は、敵敵の團魂火と燃えて戦ひ抜いたのであるが、タエゼリン島並びにルオート島において、尊くも六千五百の

射兵、軍属が戦死せられ、トラックにおいて巡洋艦三隻、驅逐艦三隻、輸送船十三隻、飛行機百二十機といふ大犠牲を出したのである。

正に開戦以来の数字である。一億國民の痛恨事であると共に、我々へ深き反省を求める一大警鐘でもある。

敵の本性を知れ

敵は今、このトラック攻撃を以て「開戦とつばなの真珠灣の仇討ちをやつた」、そして「マーシャル上陸の口を以て大東亞戦争は開始された」のだと得意になつてゐる。トラックへやつて来た機動部隊は、一應これを撃退することが出来たが、最早やこれで思ひ止まるやうな生易しい敵ではない。「米艦隊が日本海軍の牙城を直接攻撃したことは、米海軍の實力を示すものだ」とか、「米軍による攻撃の結果、太平洋の戦略的態勢が深刻な變化を受けたものといへよう」などいつてゐるから、敵は調子づいて、また不敵の攻勢に出て来るであらう。

一昨年四月十八日、東京空襲にやつて来た敵の指揮官ドワットルは、最近、「近日中に東京に對し最大規模の爆撃を加へるであらう」と豪語してゐる。いま直ちに來るかどうかは、

「ベシ」のあとを受けた敵アメリカの戦争標語である。いや標語だけではない。彼等が、現に飽くなき残忍性をもつて我々同胞に對して行ひ來つたところである。

開戦當初、比島グバオで抑留邦人はどんな目にあつたか。或る者は両手を縛られ、熱湯を浴びせられて虐殺され、或る者は目を抉られ、或る者は手足を切断され、合計五十六名が米軍に殺害されたことはまだ記憶に新しい。傷病兵を平氣で戦車の轍にかける敵の戦性は、病院船も好個な攻撃目標である。昨年十一月のぶえのすあいれす丸のときなど、海上に漂ふ傷病兵と看護婦を満載した数隻の避難舟艇を數回にわたつて機銃掃射して、多數の死傷者を出した。

敵、四圍より皇土を狙ふ

敵はこのやうに日本への憎悪に燃えて、皇國日本を抹殺しようとする四圍から迫つてゐるのである。内南洋からばかりではない。支那大陸でも日本への空襲基地を強化してゐるし、緬甸國境ではわが攻勢に制せられてゐるが、ビルマ、スマトラ方面への反攻も決して思ひ止つてはゐない。

ラバウルをはじめニューギニア、ブーゲンビル方面に對する敵の反攻も依然衰へず、わが前線の警戦にかゝはら

別として、來ればこの前とは比較にならぬ大がかりなもので、無差別爆撃の被害も當然覺悟せねばなるまい。こゝでよく臆に入れておいてもらひたいことは、敵の戦争目的が日本國土と日本民族を地球上から抹殺しようとしてゐることだ。人道主義者だ、平和主義者だなどと思つたらとんでもない。口に正義人道を唱へつゝ、彼等は何をやリ、また何をやらうと考へてゐるのであらうか。

最近、敵アメリカの或る雑誌に、ルーズヴェルトの抱く「對日處分方策」といふものが發表された。曰く

「日本は嚴罰に處せられねばならぬ。日本の各都市は爆撃と砲撃により廢墟と化せしめられ、日本が如何なる講和條件を持ち出さうとも、アメリカはこれを受け入れるものではない。日本帝國なるものは解體せしめられ、日本には永久に軍備は許可されない。」

「聯合軍は日本を徹底的に打倒し、日本を武装解除し、太平洋上の日本の島々を全部取上げなければ、アメリカの戦争目的は達成することは出来ない。そしてその後、日本國民をアメリカ式に再教育し、日本の生産様式並びに社會制度の轉換を圖らねばならない」と放送したのと思ひ合せて、敵アメリカの魂膽がこゝにあることは明らかである。

「日本人を殺せ」これが「真珠灣を忘れるな」、「日本恐る

ず、最近に撃墜機數を減じつゝあることも事實である。

また、敵は北邊アリューシャン方面からわが千島方面へ迫らんとする氣配も十分うかがはれ、海上からも、空からも、わが本土とわが占領地帯は正に狙はれてゐるのである。

ラバウルや、トラックが決戦場だと考へてゐたら大間違ひである。前線と銃後の距離はもはや零である。火は母屋のひさしまで燃えついでゐるのであつて、今にして一億國民が力を合せて消し止めねば大變なことになる。まづ身にふりかかる火を消してかゝらねば、迫り來る敵に火焰放射器の威力を發揮させてやることも出来ない。そしてこの火を何時、何處で消し止め得るかは、お五一億國民の努力と忠誠心の發露如何に懸つてゐるのである。

事あれば決然として奮起するのは、我々日本人の眞面目である。元寇のときもさうであつたし、日清、日露の戦争のときもさうであつた。捷報を受けては奮ひ立ち、悲報を受けては奮起して、遂に今日の土臺を築き上げたのである。

事あれば神風至る。神州不滅、我々に脈々と流れるこの必勝の信念は、何物にも比すことの出来ない日本人の強さの源である。これあればこそ、あの前線の勇戦を生み、この銃後の堅陣を築き上げたのであるが、最善を致さずして、この信念に頼り、この神風を持つやうなことがあつてはならぬ

い、人事を盡してこそ神風は吹くのであつて、人事を盡さずして神風をたのむのは、正に戦ひからの逃避であり、神威の冒瀆である。

我々はあの元寇のとき、帆船を倒して山なす敵艦ををどり込んでいつた我々の奮戦を思ひ、烈々たる愛國の至情にいま胸を躍らすのであるが、あの時にしても、敵の大艦隊をむかへ撃つたあの備へが豫じめ用意されてゐたならば、あの元寇のこともなかつたかもしれない。また我々の先人にあれだけの苦勞もかけずに済んだであらうし、さらに登鼓、對島を荒されずにも済んだであらう。

旺盛なる戦闘意志——これは古今東西を問はず、戦勝の根本要件である。しかし、これに配するに兵力、裝備において或る程度の量を獲得することも、また絶對の必要である。たくましい精神力は、この物量の劣数を補ひ得ることも事實であるが、それには限度がある。

率直に云へば、いま前線において、我々が敵に押され氣味であるのも、この量において不足してゐるからである。飛行機、艦船、武器彈藥——我々の銃後の生産場から送られる量が、まだ足りないからである。我々の生産への努力が足りないために、多數の同胞の尊い命を米鬼のために奪はれ、あの大犠牲を出したのだといはれてもいたし方がない。

何故なら、まだ銃後の力を出し切つてゐないからである。

きびしい戦ひの現實

大東亞戦争に二年有餘、我々はあまりにも素晴らしい戦果に恵まれ、これに狂れすぎて來はしなかつたか。はつきりいへば、みんなが少しよい氣になつてゐた。大敵アメリカと競争すれば、空襲もやられるだらうし、生活もうんと苦しくなるだらうとは、あの宣戦の日にお互が一應覺悟したことがあつた。

ところが、今日までこの餘裕綽々たるその日／＼を送り得たために、この戦争を甘くみる者の多くなつたことは否めない。決勝の年といへば、居ながらにして、今年あたり戦争が勝利のうちに終るのではないかと、人ごとのやうに考へてゐたものも決して絶無とはいへない。

もと／＼戦争はそんな甘いものではない。國民の全部が捨て身でなつて頭張り、みんなで戦ひ抜いてこそ、最後の勝利の榮譽が我々の上に輝くのである。勞せずして榮譽をかも得る、そんなことが、個人生活の間でもなく、許されないやうに、國家間の、殺すか生かすかの戦争で、あり得る筈はな

決戦非常措置要綱

決戦の現段階に即應し、國民即戦士の覺悟に徹し、國を擧げて精進刻苦、その總力を直接戦力増強の一點に集中し、當面の各緊要施策の急進徹底を図るのほかに先づ左の非常措置を講ず。

一、學徒勤勞體制の徹底

- (1) 原則として中等學校程度以上の學生生徒はすべて今後二年、當時これを勤勞その他非常任務に出動せしめ得る組織的態勢に置き、必要に應じ隨時活潑なる勤勞を實施す。
- (2) 理科系のもはその専門に應じ、概ねこれを軍關係工場、病院等の職場に配置して勤勞に従事せしむ。
- (3) 學校宿舍は必要に應じこれを軍需工場化し、または軍用非常倉庫用、非常病院用、避難住宅用その他緊要の用途にこれを轉用す。

二、國民勤勞體制の刷新

職業轉換、適正配置並びに勤勞管理、特に學徒、女子及び應徵者等に關する受入體制の急進なる刷新強化を図ると共に、家庭の根柢たる者を除く女子の女子挺身隊強制

加入の途を拓き、且つこれに即應して官廳側の指導、幹旋、保護の充實に遺憾なからしむ。

三、防空體制の強化

- (1) 重要工場につき能ふ限りの防空施設を行ふと共に、工場防空組織を完備する等、工場防空の急進なる強化を図る。
- (2) 空襲被害極限等についての準備訓練を徹底す。
- (3) 空襲による物的被害の修理復舊、食糧配給の確保、救護、空襲時川簡易住宅の建設等、空襲時の善後措置に關する準備の急進完成を図る。
- (4) 一般疎開の實施を強度に促進すると共に、第二次官廳疎開、廠舎木造官廳建物の移轉除却、統制會または團體建物及び地方會社出張所、社交俱樂部等の整理を行ふ。
- (5) 養老院、精神病院、刑務所等（生産に影響なきもの）は極力津かに地方に疎開または整理せしむ。
- (6) 前各項のほか防空並びに疎開につき急進徹底せる各級の措置を講ず。

四、簡素生活徹底の覺悟と食糧配給の改善

- (1) 時局突破のためには國民生活を徹底的に簡素化し、第一線將兵の困苦缺乏を想ひ、如何なる生活にも耐ふるの覺悟を固めしむ。
- (2) 大都市における當面食糧の配給の改善、特に少年等に對す

いま世界中の戦ふ國々は、みんな苦しいのをじつとこらへて、石にかぎりついても勝たうとして戦つてゐるのだ。そして、或ひは武力で、或ひは謀略宣傳で、相手國の戦意を打ち砕かうとしてゐるのである。そして敵アメリカは、開戦勢頭、眞珠灣でたゞかれたのに眼をさまし、頭の切替へをやつて、こゝで戦備を整へて、「さあ来い、これからが勝負だ」と、正面切つて我々に挑戦して来た。これが我々の直面する事態である。

東條内閣總理大臣が、去る二月二十一日の閣議でいはれたやうに、「今や正に帝國は文字通り隆林の岐路に立つてゐる」のだ。岐路に立つてゐるとは、ぐづぐづしてゐると敗けることになるが、こゝを轉機として、あの元寇來の氣構へで一億國民が一大勇猛心を以て突進すれば、かへつて戦機をつかみ得るといふことである。

決戦態勢は今や急速に強化されつゝある。政府は統帥と國務との一段の緊密化をはかると共に、内閣を改造強化し、次いで二十五日には閣議で「決戦非常措置要綱」が決定發表された。すべてを完勝の一點へ、國家の有する物、國民の持つ力をあますところなく結集せんとする態勢はこゝに一段と高められ、戦々にはつきりと「國民即戦士」の覺悟に徹して進むべき方向

を示されたのである。たゞ前進、實踐あるのみ。

總理は、あの重大發言の中で、「この深刻なる戦局の現段階において、いささかたりとも國力を戦争完遂に、直接寄與せしめ得ず、これがために悔いを干載に貽すやうなことがあつては、聖旨に應へ奉る所以でなく、また祖先に對し、また子孫に對し、何とも申譯がない次第である」といはれたが、ほんたうにその通りである。斷じて悔いなきまでに戦はねばならぬ。

お五に一つ胸に手を當てて考へてみよう。ほんたうにあらん限りの力を出しきつてゐるかどうか。戦死されたマインシャルのあの勇士たちに對し、また日夜苦闘される勇士たちに對して、生活を省みて悔いなきもの果して幾人であらう。お五の生活の中に、そして心の中に、まだ「戦争に對する甘さが残つてはゐないだらうか。

勝利の道こゝにあり

國難だ、決戦だ、絶戦だ——と、我々はいたづらに興奮したり、心配したりしてゐるときではない。あわてず、遅れず、お五の足下を見つめて、身を以て戦ひに徹することが必要なのである。米英撃滅の道は近きにあり、我々お五の生活

るものにつき格段の措置を講ず。

(3) 諸類の乾燥、魚類の塩漬等食糧の加工管線を増設す。

五、空地利用の徹底

家庭、隣組、學校生徒、青少年團、壯年團、産業報國會その他を動員し、特に大都市における公園、庭園、花卉園等は勿論、校庭、工場周邊空地その他の空閑地は徹底的にこれを食糧作物に利用せしむ。

六、製造禁止品の擴大と規格統一の徹底

製造禁止品の範圍を擴大すると共に、規格の統一を徹底す。

七、高級享樂の停止

高級料理店、待合はこれを休業せしむ。また高級興行、歡樂場等は一時これを閉鎖し、その施設は必要に應じてこれを他に利用すると共に、その關係者は時局に即應じてこれが活用を圖る。

八、重點輸送の強化

旅行を徹底的に制限し、線路の轉用を強化し、以て戦力増強並びに防空疎開に必要な輸送を強化す。

九、海運力の刷新強化

海運行政の刷新強化を行ふと共に、船舶建造の急速増加と船舶運航効率の劇的向上とを圖り、以て海運力の

徹底的増強を圖る。

一〇、平時的または長期計畫的業務及び事業の停止

官廳、公共團體その他の標記事務及び事業は、差當り一年間は全部これを停止し、または保存に必要な最小限度の範圍に縮少し、其の職員は他の緊要事務にこれを充當す。

なほ、右に即應し、原則として差當り一年間、官廳新規營繕工事はこれを休止し、また諮問的委員會の停止等を行ふものとす。

一一、中央監督事務の地方委任

中央各官廳の許認可等監督的業務は、差當り一年間原則としてすべてこれをそれらの地方官廳または官吏に委任し、要すれば豫じめ大綱を準則的に指示し、または事後報告を徴するものとす。

一二、裁判檢察の迅速化

裁判檢察の迅速化を徹底し、特に時局犯罪に對する迅速處理の方途を講ず。

一三、保有物資の積極的活用

廣く官公署、會社、家庭等における保有物資の積極的なる活用供出を圖る（これがため例へば倉庫公費、會社等における物資の保存年限等を極度に短縮す）。

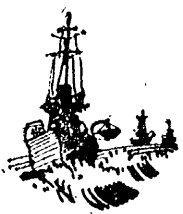
の中に、勤勞の中に、否、心の中にあることを知らねばならぬ。

要は頭の切替へであり、心の入れ替へである。たゞ祖國日本が勝つために、——この観點に立つて今までの甘い考へを捨て、迫り来るきびしい現實と取組み、すべてを捧げて一億國民が相はげみ、相扶け合つて邁進したら、戦力の二倍や三倍は立ちどころに出来る。

或る重要工場では、これではいけないと技術指導を受け、全員が生れ變つた氣持で働き出した。わづか八ヶ月の間、實に十倍の増産に成功したといふことである。別に設備を特別にどうかうしたわけでも、人手が大して増したわけでもない。「敵米英をやつつけるために」、「勝つために」と、日本人が本當の日本人になりきつただけのことである。

戦局とみに重大を加へるの秋、新聞に、ラジオに、銃後戦場の燃え上る闘魂と赫々の生産増強の戦果が、次ぎ／＼に報道されてゐることは心強い限りであるが、まづお互の職場を、そしてお互の生活をかくあらしめようではないか。

勝利の鍵は、お五一億の心の中にある。一億の生活態度にある。一億の實踐にある。



撃て、内南洋突破の野望

大本營海軍報道部

驕慢、トラックを狙ふ

二月一日のマーシャル諸島侵襲によつて、一億國民の血を逆流させた敵の反攻は、その後も依然熾烈を極め、十七日には不敵にも内南洋を中央突破して、トラック諸島の大空襲となつて現れた。即ち十八日の大本營発表は、「十七日朝來、敵は有力なる機動部隊を以てトラック諸島に反覆空襲し來り、同方面の帝國陸海軍部隊は、之を逐撃激戦中」なる旨、傳へたのであつたが、その後の詳報につき、二十一日、大本營は、

「トラック諸島に來襲せる敵機動部隊は、同方面帝國陸海軍部隊の奮戦に依り之を撃退せり。
一、本營關於敵巡洋艦二隻(内一隻は

一四、信賞必罰の徹底と査察の強化
官吏、公務員その他時局産業關係者等につき信賞必罰を徹底徹底的に行ふと共に、行政の全般に亘り強力なる査察を實施す。

一五、官廳休日縮減し常時執務の態勢を確立す
(附) 皇國隆替の岐路に際し皇國必勝の信念を徹底し、國民總動員體制を強化し、眞にその總力を竭して戦力増強、食糧増産等それ／＼の職域に邁進すると共に、時局突破のため國民生活を徹底的に簡素化し、凡ゆる忍耐を覺悟するの眞摯熱烈なる國民運動の展開を期待するものとす。

文部省二月分推薦圖書

種別	書名	著者	買價	發行所
兒童	椰子、リス	大木博夫	B六	一六 南北社
青年	雲	山田浩	三六	弘學社
陸軍幼年學校の生活	今村文英	A一	九	陸軍圖書房
日本の村長	和田傳	B六	二六	國書房
日本日本の船	須川邦彦	A一	一六	大東亞社
水道物語	梶原三郎	B六	三三	東洋堂
鏝—鐵のまじり	山本洋一	四〇	四五	高山書院

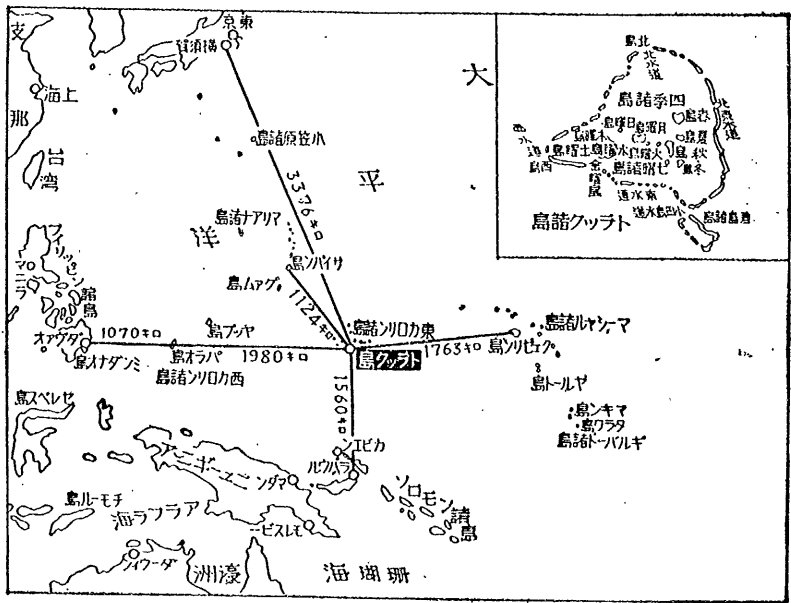
戦艦なるやも知れず)撃沈、航空母艦二隻及び軍艦(艦種未詳)一隻撃破、飛行機五十四機以上を撃墜せり。

一、我方も亦、巡洋艦二隻、驅逐艦三隻、輸送船十三隻、飛行機百二十機を失ひたる他、地上施設に若干の損害あり。

と發表してその全貌を明らかにした。敵のマーシャル侵襲によつて、神聖なる皇土の一角が汚されたとの第一報以來、全國民は瞠目して戦局の推移を注視しつゝあつたが、その後も敵の反攻は少しも衰へず、クエゼリン、オット周辺のブラウン、ミレ、タロア、ウオッセ島等に對して、盛んに爆撃を反覆すると同時に、艦砲射撃さへ行つたので、國民はいよいよ戦局の重大性をひし／＼と感じたのであつたが、我が

戦路要線上の重要據點トラックの空襲は、一層國民の憤激の念を高めた。

今回の來襲に當つても、敵は戦艦、空母を基幹とする大機動部隊を繰り出し、艦載機數百機を以て、一舉に殺到した。これに對して、海軍航空部隊をはじめ、陸海軍部隊はこれを逐撃、果敢なる激戦を交へたが、如何に本營が激烈であつたかは、我が方の損害が未だ會てなき莫大なるものであつた一事が、如實にこれを實證してゐる。そしてまた、敵の艦隊勢力が如何に大規模なものであつたかは、「日本の牙城に、直接攻撃を加へ得るほど米國海軍が強力になつた」との外電によつても容易に想像されやう。



を維持するために、到底ビルマ公路では不可能であり、またベンガル湾岸から南支を結ぶべく計畫されてゐる鐵道を以てしても、支那海を奪回し、軍需品、物資、勞力を海岸地帯へ輸送することにまつてのみ、この目的は達成される。

とまれ、敵今回の侵攻は、綿密周到な事前準備と計畫との下に、實施したものであると同時に、敵今後の作戦企圖が我が本土爆撃と、我が戦力給源である南方

初めてこれに取付くといふ作戦がとられてゐることを示してゐる。いづれにしても、今後この方面の戦局は極めて重大となつて来たが、日本の強力な艦隊が確保してゐることは、米軍の目下の戦略的優勢に對して、背後からの絶えざる大きな脅威となることを忘れてはならぬ。

一、マーシャル作戦に關する米軍の意圖は、日本海軍の主力に挑戦、決定的な海戦にあることと思はれる。

一、今日においても、空襲によつて日本本土を脆弱化しておかぬ限り、艦隊のみによつて上陸作戦を試みることは、危険極まりないことだ。それは日本本土を攻撃するに最も好都合な基地からのみならず、しかも千機の空襲を可能ならしめるやうな航空基地を、都合よく、また安全に設定し得るが如き島嶼は日本の近くにはない。かくして揚子江以北の支那沿岸のみが、以上の條件に適つた基地となり得るのだ。しかし北支に大空中艦隊を集結するためには、水田、山嶽を飛行場に變せねばならず、また機送問題も當然問題となつて来る。これだけの大空軍費

一億、體當りの秋

敵が皇土マーシャルを侵襲したことさへ、斷じて許すことは出来ない。まして、傲岸不遜にも、内南洋を楔狀に突破してトラックに肉薄したことは、絶対に黙視し得ない。しかも、今もなほこの皇土の聖域内で、日米の決闘が行はれてゐるこの事實を、我々は夢にも忘れてはならないのである。

だが、それとともに、緒戦であれ程の潰滅的打撃を受けながら、今なほ執拗激烈に反攻してくる不逞極まる敵の抗戦意志と戦力とを、我々はこの際ハッキリ正視すべきだ。その反攻は一年の八月以來一年八月に及んでゐる。最近の情報によれば、

一、一九四四年の航空機生産計畫は、前年(生産実績八五、九四六機)に比し、約五十%増加の見込みで、全軍備生産の半數

敵の侵寇企圖

この方面の戦闘において、敵が如何に空母勢力を重要視してゐるか、昨年十一月、空母を中心として太平洋艦隊の編成替へを斷行したとの當時の外電並びに最近における空母の増強状況等によつて、一目瞭然であるが、敵は今回の侵寇に當つては、從來ブーゲンビルやその他のソロモン諸島攻略戦の場合、空母は主として艦隊及び上陸軍の掩護の防禦的任務を帯びてゐたのに反し、この度の作戦では、むしろ攻撃的に、専ら敵基地乃至艦隊に對する攻撃に出でゐる」といはれてゐる。

さて、敵今後の侵寇企圖については、いつになく、米軍首脳部はまるで申合せたかのやうに沈黙を守つてゐる。ただ僅かに當の作戦指導者である太平洋艦隊司令長官ニミッツが、

「滿洲、支那、南洋等の資源地帯を背後に有する日本に對し、現在行はれてゐる

如き海上からの攻撃のみによつて勝利を占めることは不可能である。従つて日本打倒のためには、支那大陸基地よりの大規模攻撃を開始する必要がある。かくしてのみ日本の背後を脅かし、最も有效なる戦ひをなし得るであらう。」

と語つてゐるに過ぎない。従つてこゝでは、各國軍事評論家のうち代表的な論評を擧げてみたい。

一、もし反艦艦隊が一層ラバウルに接近を圖る一面、ギルバート、マーシャル方面に侵入することにより、北方よりラバウルの側面を脅威するならば、ラバウルを無力化せしむるを得ん。これは正面より攻撃するよりもラバウルの死命を制する遙かに有利な方法だ。

一、米軍は、マーシャル諸島の中心ヤルト島に對しては、根拠を行つただけで未だ上陸を試みてゐないが、これはソロモン戦に行つたと同じ戦法、即ち防禦堅固な地點に正面からぶつかつてゆくことを避け、その背後に迂回し、この基地への海上連絡を遮断するとともに、連續爆撃によつてその防禦力を弱めて後、

初めてこれに取付くといふ作戦がとられてゐることを示してゐる。いづれにしても、今後この方面の戦局は極めて重大となつて来たが、日本の強力な艦隊が確保してゐることは、米軍の目下の戦略的優勢に對して、背後からの絶えざる大きな脅威となることを忘れてはならぬ。

一、マーシャル作戦に關する米軍の意圖は、日本海軍の主力に挑戦、決定的な海戦にあることと思はれる。

一、今日においても、空襲によつて日本本土を脆弱化しておかぬ限り、艦隊のみによつて上陸作戦を試みることは、危険極まりないことだ。それは日本本土を攻撃するに最も好都合な基地からのみならず、しかも千機の空襲を可能ならしめるやうな航空基地を、都合よく、また安全に設定し得るが如き島嶼は日本の近くにはない。かくして揚子江以北の支那沿岸のみが、以上の條件に適つた基地となり得るのだ。しかし北支に大空中艦隊を集結するためには、水田、山嶽を飛行場に變せねばならず、また機送問題も當然問題となつて来る。これだけの大空軍費

を占めるであらう。本年度はB20の如き大型機生産に主力を注ぐべく、ために生産機数は一般に向上せざるも、重量において大いに向上するであらう。

一、一九四四年度計年度における船舶の建造目標は、二、三五九隻、二千万トンを超すであらう。現在の造船能力は、一日五隻であるが、近き将来には一日六隻、即ち四時間に一隻の割合を示すであらう。

一、一九四四年度の建設計画は、前年（建設費五八八億）に比し、トン数において、五十一増加を目標としてゐる。なほ、一九四三年中に空母十五、特設空母五十八計六十五隻を建造し、現在米英軍は、戦艦二十三隻を有し、うち十隻は最新鋭艦である。

一、一九四四年の武器生産総額は、前年度の二十五%、通信電氣兵器は三十五%それぞれ増加の豫定

等、ますます戦力を増強して、飽くまでも究極の勝利を確信してゐるのである。日本を地球上から抹殺する。これが我々の敵なのである。負けることは、亡びることだ。我々

は絶対に勝たねばならぬ。神州不滅、三千年來不敗の我が國は、断じて勝利。我々はこの際この必勝の信念と、如何なる困苦缺乏にも耐へる強靱な意志とを堅持すべきだ。伸びた敵の狼藉を徹底的に叩き、そして一大進攻撃を展開する今が絶好の時機だ。「日本に時を踏すな」とするこの戦機を我々は、最大限に活用しなければならぬ。我々の目前の一秒一分は、そのまゝ敵撃滅必勝の戦力であることを深く銘記し、今こそ一億體當りの秋であることを知るべきであらう。

忠魂に應へよ

この時に當り、二月二十五日の大本營發表は、

「クゼリン島及びルオット島を守備せし約四千五百名の帝國陸海軍部隊は、一月三十日以降襲撃せし敵大機動部隊の熾烈なる砲撃下、之と激戦を交へ、二月一日以降約二ヶ師團の上陸を見るや、之を逸撃し、勇戦奮闘敵に多大の損害を

與へたる後、六日最後の突撃を敢行、全員壯烈なる戦死を遂げたり。ルオット島守備隊指揮官は、海軍少将山田道行にして、クゼリン島守備隊指揮官は海軍少将秋山門造なり。尚南島に於て軍属約二千名も亦守備隊に協力奮戦し、全員の運命を共にせり」と報じた。この發表をみて誰か深く頭を垂れ、遙か東南方の空を睨んで米英撃滅の戦意を振ひ立たせなかつたものがあらうか。柴崎中将以下四千五百勇士のタラワ、マキン、の玉碎は僅か三ヶ月前だつた。それが今また、六千五百勇士の壯烈なる戦死を聞く。特に今回は普羽侯爵の御戦死あり、さきの伏見伯の御戦死と共に、竹の園生御出身の尊き御身を以て率先最前線に進ませらるゝ御垂範は、まことに感激に堪へないところである。

三千三百餘キロの彼方といつても、航空機の發達した近代戦では正に日米國境を接したのだ。今こそ我々は總隊起して、忠勇なる英魂に應へるところがなければならぬ。

一燈献納一機増産

節電の秘訣

節電については、昨今さまざま様方のご家庭や隣組常會等の話題の種となつてゐることですが、戦時下なせ電力がそんなに大切か、なぜ電力をそんなに節約せねばならないかといふことについては、先日の本誌上二月十六日号で「戦ふ電力」といふ題で詳しくお話ししましたから、今回は「どうすれば電力を節約して生産増強に協力することが出来るか」といふことについてお話しすることにしましょう。

ご承知のやうに、毎年のいま頃は水湯

りまして、戦力増強に必要な重要産業特に航空機その他の軍需品の増産用の電力を確保するためには、どうしても生産に直接関係のない家庭や商店その他の電燈と電力を節約して、これを一キロワット時でも多く生産増強に振り向けねばならないのです。

そこで、この最湯水期間を切り抜けるため、去る十八日から一ヶ月間、電力の最も窮屈な本州地域では、法令によつて、この家庭や商店事務所等の電燈や電力に對する割當電力、即ち使へる電力の量を、これまでの三割減に切

り下げることになつたのです。

このことを一般的にみますと、この新しい割當電力以下でも、なほ我慢できる餘地があると考へられますので、皆さんの努力と工夫で、この際、徹底的に節電していただくといふことになり、去る二月十八日の閣議で「電力節約實施要領」が決められ、戦力増強のための節電運動を強力に展開することになつたのです。

この運動については、もちろん官公署が率先垂範して、徹底的に實行するわけですが、この運動が實效が挙げられるのも挙げられないのも、一に皆さんの努力の如何に懸つてゐるのでありまして、もし全國の皆さん方が残らず、これまでお使ひになつてゐた電力の半分を今後節約して下さると、毎日航空機數十機の電力を献納したことになるのですから、敵米英撃滅の兵器は自分達の手で造るんだ、といふ氣持で、節電に一層協力していただきたい

です。

では、どうすれば三割、否、五割も
の電力を節約することが出来るでせう
か。その要領を少し説明してみませう。

家庭の節電

まづ家庭では、できるだけ電燈の数を減らすことです。例へば夜はいろいろな部屋をあれもこれもと使はないで、なるべく少い部屋に、また人数の少いお宅などでは、できれば一部屋に集るやうにして、一どきに幾つもの電燈を点けておかないやうにし、使はない部屋の電燈は、必ず消すことが肝要です。

また夜寝るときには、必ず消燈するのにも電力の大きな節約になります。特に地方で定額燈といつて、計量器なしで月極めの料金を拂つてゐるお宅では、どうしても夜点け放しにして寝る習慣がありますが、これもこの際ぜひ改めていただきたいのです。尤も病人

とか幼児等をのられる家庭で、やむを得ない場合には、できるだけ低燭光の電球をつけることにすればよいと思ひます。

ラジオの点け放しもぜひ注意しなればなりません。もし假りに全国の聴取者が、聴かない時に毎日三十分ラジオを点け放しにしたとすれば、毎日航空機十数機の電力を無駄にしたことになり、それだけ戦力の減退となるわけです。

また電球の大きさも、できるだけ小さなものと取換へませう。適当な大きさの電球が手に入りくいやうな場合には、現在お宅に取り付けてある電球をやりくりして、長時間点燈する部屋の電球を小さいものと取換へていただきたいのです。

電燈は一部屋に一箇で、その大きさも最高四十燭ぐらゐるとし、廊下や玄關、浴室などの電燈は、こゝしばらくは取外すとか、点けても十燭程度のもの

のにしたいと思ひます。なほ電球は小さくしても、その電球に適當な笠をつけ、これを手元近く下げて使ふやうにすれば、大きな電球と同じ明るさを得ることが出来ます。

また電力を使ひ過ぎないためには、豫じめ毎日または一週間毎ぐらゐの電力使用計畫を樹て、できるだけしばしば電氣計量器(メーター)を讀んで、実績と計畫とを比べてみるのが肝腎です。要するに家庭の節電の秘訣は、使はないときは手まめに消すといふことです。

次にアパートや下宿等の節電要領も一般家庭と同様ですが、特に管理者と止宿者がお互に協力して、國家のために節電するといふ氣持になつていただきたいと思ひます。

商店、料理店の節電

次に商店、料理店等ですが、最近特に商店等では商品の品不足の關係

で、以前より火分電燈も減らされ、また閉店時間も繰上つてゐますが、さらに今までの使用量の半分程度で済ませようとすると、また工夫が肝要です。

即ち使用電燈の数を思ひ切つて更に減らし、一燈の大きさも最高四十燭または四十ワットにとどめ、その上、終業時間をさらに繰上げるやうにし、殊に料理店等は遅くも午後十時までの營業とし、地方の實情によつて更に早く切り上げるやうにし、なほ一週に一回以上休日を設定すること等によつて、電力を節約することに心掛けていただきたいのです。

ビルディング、事務所等の電燈や電力については、多勢の人が勤務してゐるので、各人が必要のないときは、忘れずに手まめに消す習慣をつけて貰ひたいのです。特に執務を終つた後は、絶対に電燈を点け放しにしておかないことです。事務所の管理人としては、なるべく天井燈を下げて適當

な笠を付け、電球の大きさも出来るだけ小さくし、またスタンドを取付けて電燈一箇々を點滅できるやうに模様替へをすることが適當です。

また廊下や便所等の電燈は、燭光を減らし、特にこの際エレベータの使用は取止めること、建物の關係でやむを得ず使用する場合でも、使用臺数を減らし、一階—五階と最上階間の直行運轉をすることが望ましいのです。

映畫館、劇場等の電燈や電力は、レベータの使用を止めたり、廊下や便所等の電燈を減縮したり、さらに興行時間の短縮、或ひは一週間に一回以上の休日制を設ける等、出来るだけ電力節約を圖つて貰ひたいものです。

工場、鑛山その他の事業場でも、事務所や寄宿舎等の生産に直接關係のない電力は、極力節減し、所定の消費限度内で出来るだけ生産を擧げるやうに創意工夫をこらすことが必要で、それには、全従業員が一體となつて、電力

節約即ち戦力増強の氣持で努力していただきたいと思ひます。

最初にも申しましたやうに、官公署等は率先して徹底的な節電に努めることは勿論でありまして、國策會社や統制會も官公署にならつて率先節電に努めますが、特に官公署や國策會社、統制會等に勤めてゐる人々は、勤務場所

で電力節約に努力するばかりでなく、各自の家庭でも他に先んじて極力節電を實行せねばならないと思ひます。要するに節電の秘訣は、各人々々が本當に、節電こそ戦争に勝ち抜くための身近な御奉公である、といふ心構へで、積極的に實踐してゆくことであり、分つてゐるだけで實行しなければ何にもなりません。たゞ手を伸ばしてスイッチをパチリと切る、たゞそれを實行するだけで前線への兵器を生み出すことに協力が出来るのです。苛烈な戦局を直視して、一億國民のご協力を切に希望します。(軍需省)

戦ふ木材

飛行機にも船にもまづ木材

昨年二月十一日の紀元節を卜して開始されました木材の冬山非常増強運動、殊に軍需、造船供木運動で、日光の杉並木の一部を始め全国いたる所の神

社の境内林、並木、公園等の相当由緒ある木までが、或ひは兵器用材として或ひは造船機材として供出され、この戦争下、どんなに木材が重要なものであるか、一彼方々の木材に對する認識は相當に深まつたやうですが、なほや、もすれば、鐵その他の金屬物資や石炭等と比較して、その實際の重要性よりも遙かに軽くみられがちのやうです。

今日、一機でもより多くの航空機を供給することは、私たち國民の最大急務ですが、その航空機さへ、現在では木材で造られてゐることを考へてみましても、また沿岸や南方の大洋に活躍してゐる數多の木造船が、木材を主體として造られてゐることを考へても、木材は單に金屬物資の代用的な、或ひは補充的な意味ばかりでなく、金屬物資と相並んで同じやうな重要性をもつてゐることが分ります。

木材は、これ等の航空機材や造船用

材として、直接戦争に關係のある用途において重要であるばかりでなく、炭礦の坑木として、戦力増強上の基礎物資である石炭の生産に一日も缺くことの出来ない資材であり、また鐵道の枕木、汽車、自動車その他の車輛用材として輸送力増強の資材となつてゐること等は、一般に比較的よく知られてゐりますが、これ等の生産増強に伴つて使用される施設用の土木建築用材や一般用材がどんなに重要であり、どんなに多く必要であるかといふことも、また無視できないことです。即ち戦争に不可欠な航空機、艦船その他兵器を製造する工場の新設擴張、これに伴ふ勞務者住宅の應急建築用材等みんな大切なものなのです。

生産の擴充にも
疎開にもまた木材

いくら航空機用材や造船用材が優先的に供出されても、それを生産する工

場の建設擴張が伴はなかつたり、また、そこに働く産業職士を收容する寄宿舎

がなくては、生産の増強は出来るものではありません。従つて現在では、土木建築用材といつても、従来のやうに一般の住宅に使用される部分はごく少量で、大部分は重要工場とか、その工場の産業職士の住宅用として用ひられてゐるのですから、一律に、航空機用材や造船用材や坑木さへ供出されればいゝ、といふふうな考へ方は一掃されねばなりません。

このほかにも私達は、空襲必至といはれる今日、重要都市における耐火改修工事用の木材、防空資材或ひは罹災の際に備へる應急備蓄材、或ひは疎開用の木材とか、または機械等の重要物資の移動に要する梱包用材を始め、紙、衣類原料のバルブ用材等としての木材や、食糧増産のための農機具用材や、味噌・醬油用の樽といつた生活必需品の包装用材の重要なこともまた見逃

すわけにはまわりません。

なる程、どの山にも

木はあるが……

かう考へてみますと、木材はいづれの部分でも、今では他にかけがへのない重要な物資であり、一片の木の端といへども、決して夢おろそかに取扱ふことは出来ないのです。

これほど大切な役目を果してゐる木材も、これまではわが國が森林資源に恵まれ、どこへいつても山には木が青々と茂つてゐるし、米材や北洋材や南洋材が自由に輸移入されて、木材の供給には事欠かなかつたために、一般に木材の用途の重要なことが比較的十分に認識されながらも、なほ木材の生産の困難さについては案外關心がもたれてゐなかつたのです。

私たち日本人としては、山には木のあるもの、木材は木を伐ればいくらでも生産できるものと考へることは、至

極自然な考へ方ではありますが、需要

が少く、用途も地方々々の建築用材や家具用材として考へられてゐた昔は別として、現在のやうに廣汎に亘り、しかも老大な需要に應じるための木材生産について、勞務や資材や運搬力の極めて逼迫してゐる戦時下に、かうした安易な考へ方をするのは、絶対に是正されねばならないのです。

なる程、どの山にも木はありますが、山には木材を出すことのほかに、國土保安の重要な役目もあり、また林力にも自ら限度があることも一應考へねばなりません。

しかしこの決戦下、目の前の戦さに勝つためには、そんな考へは度外視しても、なほ山の木が伐られて集められ、河を流されたり、木馬道で運ばれたりして、その上、トラックや貨車等で運ばれて、需要地で役立つまでには、どんなに資材や、勞力や、輸送力が必要かといふことを考へてみなければ

ばなりません。

木材の増産と

資材、勞力輸送の關係

伐木、造材、製材のための鋸、斧、製材機、木馬道をつくるための釘や、これに用ひる油や、集材、筏等に用ひるワイヤロープ等々の資材についてみますと、全體として数量的には別に驚く程のものではありませんが、いづれも現在では極めて入手の窮乏な資材ばかりです。

次に輸送ですが、木材價格の大きな部分は、集材や輸送費で占めてゐる有様で、山における人力による運搬をはじめ、荷馬車、トラック、機帆船、或ひは貨車等々の莫大な輸送力が必要、鐵道でも石炭に次ぐ莫大な輸送量を占めてをりますから、現在、消費地における木材需要を充たすためには、この輸送力を確保しなければなりません。従つ

て、山の木と消費地の木材とを直ちに結びつけて考へることは許さるべきではないのです。

最後に勞務の問題ですが、伐木、造材、集材、運材、或ひは製材にしても、いづれも或る程度の特長技能を要するのですが、今日の情勢では決して従來のやうに十分な人達を得ることは出来ないので。

かうした生産條件のいづれの一つを考へてみても、今日餘裕のあるものはないのですから、山には木があつても、直ちにいくらでも生産されて木材になるといふやうな安易な考へ方は出来ないので。

殊に最近、とくに緊急の増産を要する航空機用材のブナ等は、未開發の奥山に多いため、多大の勞力や資材を費して、林道の開設からかゝらねばならないのですから、その急速な増産が如何に困難であるかは想像に餘りがありません。

深山に戦ふ人々

しかし、米英撃滅の戦意に燃えたつ木材生産戦士達は、専ら創意と工夫をこらして、苦しい生産條件の下に、他の産業戦士と違ひ、何の厚生施設もない人里離れた深山に、老人といはず若人といはず、汗と脂に汚れて幾多の危険と闘ひながら、命を賭して早朝から敢然として木材生産に挺身してゐるので

す。或る森林組合の人達は、木馬道に木材を滑らす油がないため木材が出なくなつたとき、いろ／＼考へた末、各自の家に歸つて少しづつ、食用油を持ち寄つてまで木材搬出を行つたといふ涙ぐましい話もあります。

かうして木材生産に従事する人達は、資材不足と闘ひながら食ふ物も食はず、一日も早く、一本でも多くの木材を生産して戦ひに勝ち抜くために懸命な努力を續けてゐることを考へます

と、私達は一片の木材といへども、勿論ないといふ氣持で取扱はねばならないのです。

木材の生産は、このやうに一般に想像されるほど容易なものではないのですが、この木材に對する需要は、航空機用をはじめ軍需、戦力増強用、施設用材等、戦争の進展と共に次第に増加の一途を辿り、今日では十年前の需要に比べて三倍も増してゐるのです。

それに對し供給の方は、以前は米材をはじめ外國からも相當輸入されてゐたのですが、今日ではもちろん輸入など期待できませんし、生産條件が困難になつてゐるので、木材需給の關係が窮乏となつてきたのは自然の勢ひです。

生産配給の計画化

そこで政府では、木材の生産確保、需給の円滑等を圖るため、こゝ数年の間、いろ／＼な對策を講じて生産統制

を進めると共に、生産配給の機構の整備も行ってまゐつたのです。

即ち最近では、昨年十月一日、木材統制整備要綱を閣議で決定し、從來の都府縣を區域とする木材會社を整備強化して、木材統制法に基づく地方木材會社に改組すると共に、これに對する森林組合系統の資本参加を求め、林材統制の實を擧げ、また森林組合にも或る程度の小規模製材を認め、或ひは木材會社以外にも廣く素材生産業を認めること等を明確にし、木材生産増強のため木材統制整備方針を確立したので

す。さらにまた昭和十八年度からは、木材全體を物動計畫に組入れ、生産と配給の計畫を樹て、それ／＼用途別に木材の配給計畫が定められ、すべての木材がこの計畫の下にそれ／＼一定の配給方式で配給されることになつたのです。

十八年度の生産配給計畫をみます

と、上半期には、前年度からの繰越量や十七年度末の増産運動等の効果で、比較的順調に計畫通り生産配給數量が確保されて來ましたが、年度の中途から

木製航空機増産、石炭の緊急増産等に要する木材が、一日を争ふ緊急需要となつてきた上に、戦局の進展に伴ひ軍需、生産擴充用の土建用材や、機械その他重要物資の包装用材等、新たな、しかも緊急を要する木材需要が相當量増加してまゐり、年度當初の生産計畫では、到底この緊急事態に應じきれない情勢となり、このため下半期においてその計畫量の約三割程度の増産が必ずとなつたのです。

増産へ！今こそ冬山の時

生産條件の困難な今日、この増産は決して生易しいことではないのですが、この増産こそ今日この決戦の時、しかも木材生産においても正に決戦期たるこの冬山の時こそ一刻の猶豫も許

されないので、

そこで政府では、この冬山を期して大増産を完遂するために、二月三日の次官會議で木材増産運動實施要領を決定し、各官廳や關係團體の協力を得て、二月、三月の二ヶ月に亘り全國的に木材増産運動を展開することになつたのです。

この増産運動實施要領では、各都道府縣毎にその實情に即して、

第一に勞務に關し、木材生産職士たる伐木夫、造材夫、集運材夫、製材工等の重要勞務者の確保移動防止につき、これ等の徵用についても考慮する等、特段の措置を講ずると共に、これらの人達に塩、味噌等の生活必需品の特配や優先配給を考慮すること。

第二に輸送に關しては、小運送能力の増強を圖ると共に、海上筏、河川流送の普及獎勵を圖ること。

第三には奥地林分、殊に航空機用材たるブナ林の開発に必要な林道網等の

擴充整備を圖り、その出材を促進するため、勤勞奉仕その他適切な援助の措置を講ずること。

等が明示されると共に、木材生産に従事して功勞のあつた人達に對して、農商大臣または地方長官から表彰または感謝の方途が講ぜられることになつたのです。

なほ政府では、河川流送や海上筏輸送獎勵のために、これ等による輸送中の流失損耗に對しては、右當り、筏について十五円、流送材については十円の損失補償をすることになつてゐます。

現在、不採算林分に對しては、補助金を出して立木供出の促進を圖つてゐるのですが、不採算林分に對する補助金ばかりでなく、政府では更に進んで苦烈化する木材生産職に對するため、政府

自らも不採算林分等の特殊林分を買上げ、自ら生産に當る決意を固めてをります。

政府のこの決意に相呼應して森林所有者の方々は、この際、父祖傳來の山々を譲んで供出され、木材業者の方々は利害を度外視して生産に精進され、一般需要者の方々は極力木材の合理的利用を圖り、その節用に努力し、官民一致して木材増産に力を協せ、木材のためこの米葉齟齬の大決戦に些かの支障を生ずることのないやう、冬山の増産に勝ち抜きたいものです。

(農商省)

二日	文は人なり	高山野牛
三日	女はやはらかに心美しきなんよき	野火
四日	何事も木つ心の直きにかへりみよ	野火
五日	怠惰の時怠惰を知らず	野火
六日	大和心し畏くば	野火
七日	天地の大徳を生といふ、人々を受けて以て孝徳となす	野火
八日	道に當りて死を厭はず	野火

母親學級の誕生

戦力増強と家庭教育

今年は長期戦態勢を整へての決戦の年であります。しかも今や戦局は、私ども一億が總動員して、總力を敵米軍撃破に結果すべき未曾有の重大な秋に際してゐます。熾烈な敵艦反攻を封じ、これを撃破して完勝する道は、戦力増強にあり、特に航空機の飛躍的増強と食糧の確保とに國內施策の重點がなされてゐることは、ご承知の通りであります。

戦力の増強には、資材や、勞務や、輸送等が大きな問題であることは、いまでもないことですが、私どもの日

常生活のすべてがそれに繋がりがあ

り、特に家庭生活は戦力増強の成否に大きな影響があることは見逃せない

事實で、今後、戦力を飛躍的に増強する

ためには、女性の覺醒と活動とに期待するところが極めて多いのでありま

す。とくに、重大戦局下における一家の主婦・母親の責務はいよゝ増大し、それに即應して、戦時下の家庭教育の重要性は更に一段と加はり、また家庭教育の新しい使命の徹底は、緊急事となつてまゐりました。

これまで家庭教育と申しますと、母親の働く手をひと時にもせよやめ、その間に子女の教育に専念することだけ

に受けとられたのですが、實は家庭における全生活が、そのまゝ教育的な力になつてゆくところに、この教育の本質があるのであります。

一家の主婦である母親が、朝には家族に先んじて起き、一日汝々として働き、夜には戸締り、火の用心をして、家族に後れて寝るといつた母親の働く姿こそは、皇國女性の傳統の美點であり、誇りであり、子女に對する無言の、しかも有力な教育になり、そこに我が國の家庭教育の根柢が培はれてゐます。従

つて、働くことと家庭教育とは、本来矛盾するものではありません。なほ、主婦の全場が職場に進出す

ることは困難であります。農家におけるやうに、他の家庭においても、家政を整へ、子女を育てながら餘力を生産の方面に向けることは、時局下、特に必要なことでもあります。一億勤勞へ總出陣すべきこの際、職場で働ける家庭の女性は、進んで職場に挺身すべきであります。

また、たとひ生産面に直接寄與することが出来ないにしても、一枚の紙、一箇の伊豆の點滅も戦力に重大な關係があることを思へば、家庭生活における正しい消費感正により、間接に戦力の増強に大いに協力することも出来ません。なほ和やかな家庭生活は、明日の生産力の源泉を培ふことにもなりません。このやうに現在國家の最も重要問題である戦力の増強も、家庭教育の徹底によつて達成できる點が多いのであります。

畏くも明治天皇御製に
たちねのにはの教はせげけれど
ひろき世にたつともとぞなる

と仰せられましたのは、家庭教育に大御心を傾けさせたまふ御趣旨と拜察いたします。

家庭教育は國運進展の根基を培ふものであります。強兵健民・人口増強は申すに及ばず、三百六十億円の貯蓄・供米・防空軍人援護等の現下緊要な問題も、家庭教育の振興によつて、達成される部面が極めて多いのであります。

そこで文部省では、今回家庭教育を劃期的に振興する方策の一として、「母親學級」を整備することになつたのであります。

學級設置の趣旨

母親學級の趣旨は、わが國における家の本義を明らかにし、家庭を眞に戰時國民道義の確立、戰意昂揚の源泉とし、進んで戦力の増強に寄與するため母親に對し必要な教養訓練を施し、家庭生活刷新の實踐力を與へることにあります。

一言で申せば、皇國が直面してゐる現戦局下における母親の自覺と活動とを促し、戦争遂行のため家庭に課せられた使命を遺憾なく達成させようとすることにあります。そしてその結果が、家庭生活の實際に具現することを本體とし、母親の團體として社會活動に具體化される場合は、大日本婦人會や大日本母子愛育會の活動となつて現はれることにならませう。従つて、母親學級は、右のやうに關係團體とも極めて關係の深い施設でありますから、開設にあつては、これらの團體と密接に連絡をとる必要があります。

開設の要領

開設箇所

地方廳を通じて女子中等學校、國民學校等を選定して、母親學級の開設を委託して實施することになつてをります。委託を實施する箇所は、全國に亘つて、昭和十八年度は五百校でありましたが、來る四月（昭和十九年度）から

は、これに數倍する開設箇所を豫定してをります。開設の費用は極めて僅かです。すなわち石川縣等で實施されてゐるやうに、都道府縣内の全國民學校でも、この種の施設を設けられたいものです。

開設場所

原則として國民學校の校舍を利用します。しかし母親學級は、母親の僅かな餘暇を活用し、かつ地域的特色を保つ必要もありますから、農山漁村等では、部落の集會所・公會堂・神社・寺院を始め、私宅の広い座敷でもよく、要するに一定地域に住んでゐる母親が集合し易い場所を選ぶべきであります。さらに進んでは、母親である女性が多數働いてゐる工場等における職場にも、母親學級を開設して貰ひたいものです。

入學するもの

名稱の示す通り子女をもつ母親を本體とします。ただし母親學級の教育對象である母親は、その子女が國民學

校に在學するものに限定しません。現に子女がなくても母たるべきものや、一家の主婦は、母親學級の教育對象であります。なるべくその地域に住むすべての該當女性が、洩れなく全部入學することが望ましく、そこに母親學級の使命があります。

この意味で、國民學校在籍學童の保護者、とくに母親を對象とし、國民學校の教育と家庭との連絡に重點を置き、學童の教育に關することを主とする學校母の會、學年母の會や學級母の會等とは趣きを異にしてゐるのです。

しかし母親學級は母親を本體とし、教育内容や研究懇談の主要項目に子女の養育養護があり、運営の實際には國民學校長と訓導が當るのですから、國民學校と家庭との連絡は、この學級によつて強化されることは自然の勢ひです。しかし母親學級では、子女の黨陶養護といふ問題だけをとり上げて、單に國民學校關係だけでなく、就學前の子どもの育成と男女青年を

どう教養するかといふふうには、母の會等よりも、もつと廣い範圍に亘るのであります。

學級の指導者

國民學校に委託して開設するので、母親學級の運営の指導者・責任者は學校長であります。學校長の指揮によつて、直接には國民學校の教員が擔當します。この際、婦人會の幹部が有力な協力者であることは申すまでもありませんが、その他校下の各方面から物色し、とくに所在の官衛長、市區・町・村長、青年學校・中等學校等の校長、教員、神職、宗教家、農會技術員等にはできるだけ支援協力を求め、また家庭教育指導者講習會の受講完了者等も活用し、ときには校外から講師を招聘することも考へるべきです。

學級の組織

母親學級の組織はいろいろありますが、基本的なものを擧げると次ぎの通りです。

まず一貫性のある場合、一村一國民學校の山田漁村等では、通學の便利な場合は全村の母親をもつて、一母親學級を開設します。この場合には人員が相當に達し、従つて母親を集めての單なる講演會に終つてしまふ虞れがありませんから、聴講後、それらの班、部落で幹部が司會し、常會式の研究懇談會を必ず開いて、實踐指導を強化する方策を並行させる必要があります。班や町内、部落單位の場合、通學の便宜や人数、效果等の點からみて、婦人會の班や部落單位で母親學級を開くことが最もよいのです。小地域の單位ですら、集る母親は相互に平素から面識があり、日常生活でも繋がりがあり、このやうな母親學級では、必然的に常會の色彩を帯びて、學級で修得したことを日常生活に實踐する場合に、相提携して動かし合ひ、研究し合つてゆくのに都合がよいわけです。

この場合には、開催する箇所が多くなりますから、指導者側は適當に受持を分擔しておく必要があります。幹部單位の學級の場合、町内・部落や婦人會の班における幹部級の母親、婦人をもつて學級を組織するもので、いはば指導者を對象とする母親學級であります。しかしこの場合は、これ等の母親がそれ／＼町内・部落或は班に歸つてから、修得したことを自分の生活に具現するだけでなく、常會等を通じて周囲の母親に及び、相携へて實踐に努めるやうにすることが肝要です。以上の基本的な組織のほかに、出征軍人家族、戦没軍人の遺族等の母親、主婦で組織するもの、滿蒙开拓青少年義勇軍を送り出した母親で組織するもの、應徴戰士の家族の主婦で組織するもの、同一の職場で働きつゝある母親で組織するもの等、それ／＼特殊の使命をもつ母親學級も、既に一部の地方では實施されてゐます。

開設回数と時間 一回二時間、一月一、二回を標準とし、だいたい一ヶ月でその年度の母親學級を修了するこ

あります。具體的な教育内容としては、わが國の家の本義、戦時家庭生活の使命、時局認識を徹底すると共に、子女の教育、疾、保健を中心として戦時家庭の家政、刺繍、被服から、農藝、手藝、工作、國防訓練その他音楽、書道等の技能に及び、體操等も開設時間の前後に按排します。そして最も肝要なことは、右を通じての家庭における實踐生活の指導であり、この實踐によつて、皇國に生を享けた母親の使命を全らし、現下の國策が家庭において實現し、生活刷新が斷行されるのであります。これがためには、指導者の説話による指導以外に、實習や實驗、見學等を加へると共に、前述のやうに、研究懇談會式の常會を加味することも必要であります。また大日本婦人會支部や班、恩賜財團大日本母子愛育會支部等との連絡は申すに及ばず、必要に応じては、その地方の少年團、男女青年團、壯年團をはじめ、地方自治體等とも提携し

て、國家の要望するところを、速かに家庭生活に具現すべきであります。なほ、母親學級と部落常會や隣里常會との關係について一言しますが、それ等の常會徹底事項は、もちろん母親學級でもよく趣旨を了解するやうに緊密に協力すると共に、母親學級の成果の具體化については、これ等の地域常會と連絡して、その目的を達成すべきであります。その他、できるだけ放送、紙芝居、映畫、幻燈、音盤、新聞、雜誌等も利用して、効果を収める工夫も肝要です。或ひは都道府縣の中央圖書館の指導の下に母親の讀書指導を行ふことも、この學級で實施することが出来ます。このやうにその教育内容は各方面に亘るので、勿論これ等は、指導者側の年次に即した周密な教育計畫によつて實施されるのです。

要するに、母親學級は常會の長所と、學校の長所とを併せとり、學ぶことと行ふことを一體とし、しかも近隣相携へて勵ましてゆくところに大きな意義があるので、學級の經營に當つては、この趣旨をできるだけ生かす工夫が肝要であります。また母親を出席し易いやうにするためには、國民學校上級生を指導して、母親學級の開設時間中は、臨時託児所を設けることも考ふべき事項の一つであります。以上は國民學校を中心とする母親學級について説明したのですが、女子中等學校で開設する場合も、その要領は同様であります。ただし女子中等學校では、地域との繋がりや國民學校ほど明瞭ではありませんから、母親學級は必然的に前に述べました「幹部單位の學級の場合」になります。従つて開設に當つては、關係國民學校、婦人會等ともよく連絡すべきであります。なほ女子中等學校は、國民學校に比べて施設等も整備してゐますから、この有利な條件を生かすことによつては、充實した母親學級が開設されませう。

(文 部 省)

週

大いに悔い、大いに敢闘せん

二月十八日の「敵は有力なる機動部隊を以てトラック島を反覆襲撃し来り...」の本營発表に、次に来るべき敵艦の進軍を警告して待ちました。二月二十一日の「我が方もまた巡洋艦二隻...」といふ一言一句は、大本營発表即ち勝利の發表と云ふ思ひこんでゐた人々にとつて、まさに天来の奇蹟でありました。

世界無比の皇軍にして、なほ且つこのやうな意い様性を出さねばならなかつたところ、軍備的に老大な量と唯一の持みとする敵に對し、寡兵、想像を絶する皇軍の思ひ出さるるほどが傳はれ、私も後一億の至らなさと、課せられた責任の重大さに、今さらながら襟を正し、心を改めずにはいられません。

緒戦以來の赫々たる皇軍の相次ぐ戦果に、私も、知らぬ間に安易な戦争観をいだくやうになつたことは、否定できない事實であります。ガダルカナル島轉進以來の戦局も、口でこそ緊迫化を説きこそすれ、心の奥底には、依然として變らぬ漢とした安易な希望の觀

測がらばつてゐたのではないでせうか。なる程、二機でも多く一艦でも早くとは、今や私も一億の合言葉となつて、街を野を埋め盡してゐますが、それを現實の飛行機として、艦船として、大東亜の空を海を埋め盡すためには、新たな決意と過しき實踐が絶対に必要で、そこにのみ私どもの生きる道、勝利への道があるといはねばなりません。

統帥と國務いよく緊密

御機嫌の下、水も洩らさぬ統帥と國務の緊密さは、まことに世界に誇る我が決戦態勢の特色であります。緊迫する現戦局は、さらに兩者の一段の緊密、円滑化が強く要請されるに至り、こゝに東條内閣總理大臣兼陸軍大臣は、陸軍大將の資格で參謀總長に、また嶋田海軍大臣も、同様に海軍大將の資格で軍令部總長に親補され、さらに參謀次長の二名制が採用され、後宮淳大將が親補されました。

中までもなく、統帥の獨立は、憲法第十一條に明記されてゐるところで、今回の親補によつても、帝國憲法に何ら抵觸するものではなく、單に軍政と軍令の長官が

同一人格であるといふのに過ぎません。むしろ陸海軍の軍政、軍令の長官が一人格に集中され、さらに、その一人が内閣總理大臣であることは、戦力指導の強力なる一元化と、それに伴ふ總力戦態勢の飛躍的前進が深く期待されるといふべきであります。二十一日、陸海軍省長公邸

内閣改造断行さる

二月十九日午後九時三十分、親任式を行はせられ、左の通り發令されました。

任大藏大臣 石渡莊太郎
任農商大臣 内田 信也
任運輸通信大臣 五 島 慶 太

親任式を終へた後、石渡大藏大臣は、大東亜戦争勃發以來の財政金融政策には依然として變りはなく、たゞ、これらの諸方策を強力に推進してゆきたい、また内田農商大臣は、「食糧事情や配給機構の實情を十分に調査、検討し、抽速よりも巧速を以て處してゆきたい」、さらに五島運輸通信大臣は、「輸送力の増強態勢は既に整備された。要はこれに魂を入れ、一日も早く戦力化するやう、たゞ實行あるのみ」と、決戦の現段階に對處する固い決意を披露しました。

閣議を宮中で開催

内閣改造後、初めて開かれた二十二日の閣議で、東條總理大臣は、「我々が一大勇猛心を以て突進する秋、そこには必ずや難局打開の途がある」といふ緊迫化した戦局に對する平乎たる所信を披露しました。なほ、今後の閣議は、「國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼ス」との帝國憲法の眞精神を形式の上でも具現するため、宮中において行ふことになり、こゝに閣議は、名實ともに本來の姿である廟議に立ち戻り、東條總理以下全閣僚一體となつて、輔弼の責任を完うすると共に、時艱克服に邁進の態勢はいよいよ固められたわけでありました。

間接税の眞意に徹せよ

今度の議會で成立した増税案は、四月一日から實施されますが、とくに間接税のうち物品税、遊興飲食税、入場税、特別行爲税の四つが去る二月十六日から實施されました。引上げられた税率をみると、生活必需物資には低く、戦争生活に徹する私どもへの温かい思ひやりが、はつきりと示されてゐます。

これとは反對に、不要不急の物資や行爲に對しては、思ひ切つた高率、禁止的な税率が課されてをり、戦争傍觀者や認識不足の人達にとつては、まことに痛いお灸といへます。

實際、この決戦下、一金五十円也のコンバクトで鼻の頭を叩いて、金としませ。八割も税金のかゝる料理を食へて、木の芽、草の根を嚼つて取調されてゐる前線勇士に對して、いつたい何のかんばせがあらませう。ところで、税を大別しますと、多少の例外は別として、直接税は生業税であり、間接税は、とくにこの四つの税は消費税であるといへます。従つて、この間接税に關する限外、多く納税することは、國家への何よりの御奉公と思つたら大間違ひ、それはまさに米英陸波の戦力を蝕むことであるといつても過言ではありません。

この間接税の實施によつて、昭和十九年度には、三億七千四百萬圓の増収が豫定されてゐますが、この額が少ければ少いほど、國力は増大することになります。皆さん、今年は一つは一贖、戦争生活を徹底して、間接税を納めないやうに努力し、大敵首に鮮しい悲鳴をあげさせよう。

恩賜賞、學士院賞の受賞者決定

昭和十九年度の恩賜賞と帝國學士院賞の受賞者が次ぎのやうに決定されましたが、今回は第一部(文學)と社會的諸學の關係の受賞者は一人もなく、すべて理學と理學應用諸學科である第二部關係であることは、近代戦は科學戰であるといふ決戦下の切實な要請を端的に、また強力に反映してゐるものといへます。(十七日、文部省発表)

- 恩賜賞
 - 唯液線の内分るに關する研究 橋方知三郎博士
 - 帝國學士院賞
 - 本邦冷害の生理學的的研究 寺尾 博雄博士
 - 藻類の化學的研究 小竹 善二博士
 - 化學反應の速度論に關する研究 佐々木中二博士
 - 勞務海軍用基に關する研究 藤原英二博士
 - 地磁氣變化の研究 島山久壽雄博士
- 第三種需用の電力を三割制限(十五日、軍需省発表、別項一欄掲載参照)
- 國民學校令臨時特令(十六日、公布)
- 鐵鋼に特別價格優待制度を適用(十八日、軍需省発表)
- 人口調査と國民登錄(二十日、公布)

黒

國民合唱 空の父空の兄

作曲 田代六蔵
作詞 田代六蔵

愛憎を以て、しかも自然と（悲しみ）

一ノサレテ イッ タ ソラ ノ チチ
二ノサレテ イッ タ ソラ ノ チチ
三ノサレテ イッ タ ソラ ノ チチ

（活々）

メサレテ イッ タ ソラ ノ ニ
メサレテ イッ タ ソラ ノ ニ
メサレテ イッ タ ソラ ノ ニ

（やさしく）

ケフモボクハヨハシク
ケフモボクハヨハシク
ケフモボクハヨハシク

（活々）

ケフモボクハヨハシク
ケフモボクハヨハシク
ケフモボクハヨハシク

空の父空の兄

一 召されていつた空の父
召されていつた空の兄
つばさつらねて飛んでいく
その爆音が脚を蹴る
今日もほくらを呼んでます
ひかり湧きたつ空のなか

二 召されていつた空の父
召されていつた空の兄
翼かたむける荒浪に
羽ばたき水漬く海國を
今日もほくらを思ひます
北や南の海のうちへ

三 召されていつた空の父
召されていつた空の兄
敵撃滅のそのあとで
につこりなさるお姿が
今日も大ききうかびます
今日も大ききうかびます

（三月六日から三月十八日まで、
山崎日輪を毎日午後六時から
国民の陣営に置いて放送）

塔風通



斷平神州を讓持せん
ルオット、クゼリン島守備
部隊戦死の發表に、どうしよう
もない憤激を持って除してある
支、引續いて國內情勢の決戦非
常措置取綱が發表されたので、
どうやら救はれた氣持になった
のは、恐らく私一人ではないだ
らう。

遂に皇土の一角に敵が侵入し
て来たのだ。汚れたき神洲の聖土
が米夷の土足にかけられたのだ。
三千年この神州を護持して來
たわれらの祖先に何としてお
踏むをすればよいのか。
やがては日本を背負ふわれわ
れの子孫が、よき祖先を持った
とわれらのことを語ってくれ
るためにどうすればよいのか。
いではないか。 O. 大蔵

軍爲に、子孫にこたへる途は
たゞ一つ。
今こそわれらの持つすべて
の力を一日も遅くたゞ敵撃滅の
一點に結集することだ。
遊びたい、美味いものが食ひ
たいなどの氣持は一切切つて
際サリと捨てて、たゞ勝つた
めにのみ働き抜かう。

（軍部新聞部 島田通雄）

富饒物資を愛護せよ
驕や、濫や、その他集積場へい
つてみると、仲仕達が米麥その他
の穀物類を荷役してゐるのを見
受けませんが、仲仕達は打鉤で取
扱ふ瞬間、穀物に外巻が袋の
打鉤の破れ目からポロ／＼出て
ゐても、仲仕達はこれを平氣で、
混雑に取扱つてゐるのです。
決戦下、食糧増産の緊急を要
する今日、仲仕諸君は勿論、監
督の任にある人達も、今少し
これが防止にご注意下さるの
が、勝つてゆく生活の一翼ではな
らぬでしょうか。 O. 大蔵

第二十二回彈丸切手賣出

三月一日より十五日まで
一枚二圓・一等千圓
抽籤・三月二十日

第二十一回彈丸切手當籤番號

一等 (千圓)	32407 34967 38708 40789	切手番號 ノノ数字 下ノ数字 ガ記番 ガ記番	切手番號 ノノ数字 下ノ数字 ガ記番 ガ記番	087 106 109 116 123 126 148 164 166 186 194 197 199 203 215 218 224 231 236 248	253 269 282 284 294 309 322 325 326 339 344 368 372 374 375 377 383 389 391 399	427 441 448 465 470 472 483 499 548 561 565 570 601 604 629 638 651 672 686 698	723 726 733 736 744 746 748 755 771 774 778 783 791 802 807 833 841 842 849 859	866 867 870 882 883 889 916 918 920 929 951 954 974 978 982 984 985 992
---------	----------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	--	--	--	--	--

抽籤の濟んだ切手は五枚以上まとめなるべく早く郵便
局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。

週報

昭和19年 2月 儲蓄債券 當籤番號 (共ノ三) 支拂開始期 3月1日 支拂場所 日本勸業銀行本店、出張所・代理店及 集配郵便局 全當籤番號掲載紙 官報、債券時報號外、各地ノ主ナリ新聞

Table with columns for bond numbers (e.g., 62488, 62511, 62524) and corresponding values. Includes sub-sections for '儲蓄債券' and '國債'.

大藏省・日本勸業銀行 印刷者 東京印刷局 局 發行所 東京印刷局 申込所 各地官報週報普及部 書店新聞店藥店